

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401699		
法人名	特定非営利活動法人 しまばら		
事業所名	グループホーム諏訪の里		
所在地	長崎県南島原市深江町丁1520番地		
自己評価作成日	令和2年12月7日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和3年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

眼下に有明海、背後には雲仙普賢岳が見え、国道より一本入ったところに当ホームがあるため静かな環境です。
また、日当たりも良く洗濯物などすぐ乾き、乾いた衣類やタオルなど入居者様が率先してたたんで下さり、日常生活活動の一部になっています。
1ユニットで入居者様9名と小規模であるため、ゆっくりとした時間が流れ、入居者様一人一人居室で過ごされたり、フロアーにて居眠りをされたり、鼻歌を歌われたりと、それぞれの時間を過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年間目標「楽笑」を掲げ、体操や棒編み、コスモス見学などを積極的に取り入れ、明るく笑顔で活動できる機会を設けている。また、管理者は新体制の中で、「まずは自ら見本となる」ことに徹し、職員の先頭に立ち支援に取り組んでいる。法人内では、IT化を進めておりWeb会議や介護業務アプリ等の共有により職員間のつながりの活性化、ペーパーレスによる業務の効率化とサービスの向上を図っている。さらに、法人の居宅ケア管理部が定期的に指導に回っており、法人内でチェック機能を備えていることは強みといえる。家族には年に1度アンケートを実施し意向や意見を抽出している他、コロナ禍で面会できない中、日常の様子を電話や便りに一筆書き入れるなど詳細に知らせ、LINEやテレビ電話も可能にするなど関係が途切れないよう支援に努めている。外国籍の職員も雇用し、職員寮を完備するなど働きやすい職場環境を構築している。言葉や文化を超え事業所独自の長を基に、躍進を遂げながら理念や目標の具現化に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度より当法人となり、法人理念を原点として取り組んでいる所である。	昨年度から経営母体法人が変更となり、代表が法人理念の意味や目的を職員に伝えている。また、今年度新たに管理者を変更しており、年間目標「楽笑」に沿い、体操や棒編みなどを取り入れ、コロナ禍の中でもコスモス見学に出掛けるなど、明るく笑顔で活動できる機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方などには挨拶を行っている。コロナ禍で散歩なども限られており、交流の機会が少ないが、出来る限り近隣の方々との交流をもつよう心がけている。	今年度管理者を変更したこともあり、近隣住民へ管理者が法人のカレンダーを届けながら挨拶に回り、新自治会長からの情報も得るなど交流を広げている。新型コロナウイルスにより、地域行事や散歩などの外出も難しい中、出来る限り挨拶など交流が持てる機会を作るように図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や活動など、利用者と一緒に参加するようにしているが、今年はコロナ禍の影響で、行事や活動への参加が難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や入居者様の生活や活動などを議題に取り入れている。また、会議の議事録は玄関に設置しているiPadにて閲覧できるようにしている。	新型コロナウイルスのため、今年度第2回を书面会議で対応し、第3回からは通常通り会議を再開している。会議への家族の参加が多く、利用者状況や日々の活動を報告し、意見交換を行いながらサービス向上に活かしている。その他、行政からの参加もあるが、地域住民代表の出席はない。	法人移行、管理者の入れ替わりなど、新体制の中で自治会との連携や近隣住民との交流を深める取組みを継続しながら、会議への参加に繋がるための更なる工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には、わからないことや疑問に思ったことなど相談したりしており、協力関係が出来ている。	市の担当課職員が定期的に訪問している。今年度は新型コロナウイルスにより行政からテレビ会議の案内があり、参加している。日頃から不明な点は電話や直接問い合わせ情報を得るなど、連絡を密に取っている。島原市へ介護保険更新時は出向き、法人本部ともその都度連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、玄関の施錠は常時行わないが、コロナ禍ということで、現在面会禁止となっているため玄関は施錠している。また、身体拘束に関する勉強会を行い、職員が理解し取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置している。	毎月法人の管理者会議で身体拘束廃止委員会を開き、運営推進会議で報告している。毎月職員会議の中でも議題に取り上げ検討している。また、法人内研修計画に織り込み受講後はテストを実施するなど全職員で知識の向上に努めている。外国人職員にも言葉の拘束への理解を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会を設けている。また、職員間での声掛けや入居者様の観察を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会を設けている。必要性に応じて支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約時に十分な説明を行っている。家族の理解や納得された後で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望の家族にはLINEで近況報告を行ったり、ビデオ通話を行ったりしている。また、家族との電話でのやりとりの際にも近況報告を行ったりしている。必要であれば、その都度話を行い、解決策を見出している。	利用開始時、苦情相談窓口や意見箱利用について説明している。職員は、家族の訪問時や電話、SNSを活用し、利用者の近況報告を行い、家族に意見や要望を尋ねている。独自の家族アンケートも取組んでいる。ビデオ通話や送付書類の見直し等、サービス向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談を行ったり、今年度はコロナの影響でなかったが、毎年法人職員との懇親会があり、場を通じて意見を聞いたりしている。	スタッフミーティングや申し送りから、管理者は職員の意見や提案を聞いている。また、年2回自己評価時に、個人面談を行い、職員の介護に対する思いを把握している。管理者は特に外国籍の職員とのコミュニケーションを図っている。行事計画は職員主体で行っている他、必要備品の購入や希望シフトなど、現場の意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価をもとに、個人面談を行ったり、法人内にはなっているが、勉強会に参加し各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人勉強会にて議題に合わせたフォローアップ研修を職員と一緒に視聴し、確認テストを行うことで技術向上を行っている。法人外の研修を受講する際には勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅や病院連携室など問い合わせがあった際に情報を提供しあったり、訪問の機会があれば訪問し情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談の時より、本人とも面談を何度も行い、意見を傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談の時より、家族とも面談を何度も行い、意見を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の両方にとっての最善の方向を見つけ支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	座って出来ること(洗濯物たたみやタオルたたみなど)は手伝ってもらっている。また、昔の生活などレクリエーションを兼ねて振り返って話をしたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も常に家族と話し合いながら支援していくよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出や外泊など、本人や家族の希望があれば対応している。 また、行きつけの美容室などに出かけられる場合もある。	利用開始時に、利用者の生活歴や家族からの情報を基にフェイスシートを作成している。従来は、馴染みの美容室に外出したり、家族との面談など自由に対応していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防策を講じ、玄関での面談やテレビ電話を活用して支援に努めている。ただし、フェイスシートの有効活用はこれからの予定である。	全ての職員がスムーズに利用者の支援に取り組めるよう、事業所での暮らしの中から得た情報を加筆しながら、フェイスシートの内容を充実することで、本人の馴染みの関係継続に向けた支援に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動や入居者様との会話などを通じて入居者様同士でのコミュニケーションが取れるよう、職員が間に入って支援したり、気の合う方とテーブルを一緒にしたりなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は入院や退所の入居者様はいないが、入院などで退所されても今後の方向性などについて家族や医療関係者などとも面談を行い、継続的な関係を保つよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら本人の希望や要望をくみとりながら、一人一人に合った生活が出来るよう検討している。	職員は、日中ゆっくりと過ごしているときや受診時の待合室、ドライブ中の車内など、利用者一人ひとりと会話し、思いを汲んでいる。会話が困難な場合、筆談や聞こえやすい耳に声掛けし、意向を汲んでいる。趣味の編み物やパズル作成、日中の過ごし方など本人本位に検討している。職員は申し送りノートや個人記録で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中でその人らしさや家族より聴取したりして、現在に至るまでの生活歴も把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子観察やバイタルチェックなどで総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を十分取り入れている。また、全職員がいつでも閲覧できるようファイリングし、期間終了前にはスタッフミーティングで見直しを行っている。	利用開始後1ヶ月の暫定プランを立て、その後短期6ヶ月・長期12ヶ月の計画を作成している。その都度本人・家族の意見を含め、同意を得ている。24時間チェックシートは外国籍の職員にも分かりやすいようにフリガナを付けるなど工夫がある。介護記録や計画の実施状況等をパソコン入力し、ソフト管理により介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はもちろんのこと、日誌や申し送りにて情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を生かした支援は必要な状況に応じ柔軟に支援するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内外のネットワークを活用し安全に暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人のかかりつけ医を継続し、連携を図っている。	入所前のかかりつけ医を継続しており、他科受診も含め職員が同行し、結果を家族に伝えている。週1回法人の訪問看護師が健康状態を確認し、連携を取りながら緊急時等の医療支援に努めている。今年度は新型コロナ禍のため、薬局での薬受け取りに変更し、職員は主治医へ利用者の状態変化等を詳細に伝え健康維持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護へ1週間内での気づきや体調面など相談したり、来所日以外でも訪問看護へ連絡、相談、報告を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、面会可能であれば面会したり、医療連携室へ状態伺いの連絡を入れ情報交換を行いながら連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や本人、家族や関係者などと話し合いのうえ、方向性を検討している。	事業所としては看取りを行わない方針であり、重度化した場合の指針を、利用開始時利用者・家族に説明し同意書を交わしている。主治医の意見を基に、利用継続が困難になった場合は、他施設への入所や医療機関への入院などを説明し出来る限り協力を行う体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを周知させたり、緊急時の対応などの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の総合避難訓練の実施を行い、そのうち1回は消防署立ち合いで実施している。また、毎月のスタッフミーティングでは消防の年間の計画に沿って災害に対する意識を高めている。	年2回総合避難訓練を実施し、内1回は夜間想定で消防署が立会い、水消火器の実演等も行っている。また、令和2年度防災計画書に沿って月1回、自然災害や防災機器の取り扱い等さまざまな内容の自主訓練を実施し、職員間で必要な知識を共有している。ただし、地域住民との協力体制の構築には至っていない。	有事の際、利用者が安全に避難できるよう誘導には地域住民の協力を得ることが重要である。管理者を中心に法人とも連携を図りながら、消防団や地域住民等との更なる協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の気持ちをもって接するよう心がけている。また、プライバシーや守秘義務は守るよう徹底しているし勉強会も行っている。	職員は常に利用者を人生の先輩として接している。居室のドアは必ず閉めるなど、プライバシーに配慮している。職員は、接遇や守秘義務、プライバシー保護の研修を法人研修で受講している。個人情報事務所で管理し、パソコンのセキュリティ対策も万全である。利用者の写真、家族のSNS使用の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中での思いや希望などを理解し、自己決定が出来るよう支援するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースをもとに、本人の希望に沿った支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会などの行事では、衣服を選んで頂き薄化粧も行い会に参加したりしている。また、鏡を見ながら自分で出来る方は髪を梳いてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事用のエプロンをたたんでもらったり、使用したお盆を拭いてもらったりと、出来る範囲でのお手伝いをお願いしている。また、食事は、職員も一緒に食卓に着き、会話をしながら楽しく摂取できるようにしている。	食事は契約している配食事業者により、利用者の好みを伝え、業者が献立を作成している。職員が利用者の嚙下に合わせ盛り付けている。食事は、職員も一緒に食卓を囲み、利用者を励ますことで食欲を高め、食への関心を引き出している。季節感やイベントに合わせて、職員が手作りおやつを作るなど、食を楽しめる工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事をとりながら、状態観察を行っている。また、食事以外でも水分補給など、水分の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底して。義歯は週一回洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人に合った排泄用品を使用し、残存機能を活かしながら排泄の自立支援を行っている。	日中はトイレで座位による排泄を支援している。職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄支援状況を把握している。スタッフミーティングで、習慣やパターンに応じた個別支援を検討している。利用者の必要な介助やパッド類を見直すことで本人の自尊心に配慮した支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	アクティビティへの参加や、体操などへ参加して頂き適度な運動を行っている。また、夏場はアクエリアスを作り、いつでも提供できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間など、体調や希望を伺いながら対応している。	日曜以外は入浴を準備している。職員は、利用者に週2回を目安に声を掛けている。入浴拒否の利用者には、時間や言葉掛けを変えるなど工夫し、無理強いはいしない。菖蒲湯・柚子湯など季節の湯を取り入れたり、入浴介助時は職員と会話を楽しんだり、ゆったり浴槽に浸かるなど、利用者にとって心地よい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や用法を把握し、症状の変化があれば主治医に相談している。また、薬剤師にも相談やアドバイスなどをもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、生活歴や力量に応じて、役割分担を決めている。また、体操やレクリエーションなどで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば対応するよう心がけている。家族の協力のもと、外出などの支援を行っている。	新型コロナウイルス感染予防の観点から、以前に比べ外出支援が減っているものの、季節や利用者の体調に合わせ、事業所敷地内を散歩したり外気浴を支援している。現在は感染予防策を講じながら、ドライブに出掛け、車中からフラワー公園など季節の植物鑑賞などを楽しんでいる。	

グループホーム諏訪の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由である。コロナ禍であるため、希望の家族には、ラインなどで近況報告を行ったり、写真を添付したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝から日差しが差し込み、日当たりの良い場所があり、ソファに座ってゆっくり過ごされることもある。畳の間もあり、昼食後は畳で横になってもらったりしている。	採光の良いリビングでは利用者がソファやテーブルに集い洗濯物たたみなど思い思いに過ごしている。廊下は広く手摺を完備しており、和室は食後に寛げる場となっている。玄関には生花や観葉植物を飾り季節感を取り入れている。職員は毎日の清掃に努め、換気の徹底の他、消毒液や空気清浄機などを随所に設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっているので、一人の空間が保たれている。また、共同の空間では他者とのコミュニケーションが取れるよう、職員が心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本、入所目に使用していた家具や生活用品の持ち込みは自由としている。	事業所は居室に収納とベッド、ハンガー掛けを準備している。利用者が事業所での暮らしに馴染めるよう、使い慣れた椅子や雑誌など持ち込みは自由であり、利用者の目線に合わせた配置である。現在、居室環境整備に注力しており、職員は換気や温度調節、清掃を行い環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策に十分留意し、自立した生活が送れるような工夫をしている。		